様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　６ 月 ２９ 日現在

機関番号：５３３０２
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ０３０８３

研究課題名（和文）奥能登における真言宗結衆寺院の総合調査－町野・中居・木郎三結衆を対象として－

研究課題名（英文）A study of Three Group of Shingon Temple in Okunoto

研究代表者
宮野　純光（MIYANO, Yoshimitsu）

国際高等専門学校・一般教科・教授

研究者番号：２０４１３７６８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は奥能登の町野・中居・木郎各地区に所在する結衆と呼ばれる真言宗のグループ寺院を対象とした。寺院の所蔵する歴史的資料の調査を行い、それらをデータベース化し、結衆寺院組織の歴史的変遷や地域の特色を考察することを目的とした。
３年間で寺院１８か寺と２つの図書館での調査を行い、所蔵資料のリストを作成した。また、結衆の歴史的変遷、資料の伝来、文化財保護、他地域の真言宗寺院との関わりなどについて考察した。こうした成果を公開シンポジウムの実施、研究成果報告書の作成を通して公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　今回の調査により町野地域の結衆寺院の資料調査が終了し、一地域の結衆寺院の網羅的な悉皆調査という貴重な成果を示すことができた。また、近隣の複数の結衆の調査により、異なる結衆組織の比較検討を可能とし、僅かながらも類似点・相違点を指摘することができた。
奥能登は石川県の中でも他の地域に比べ真言宗寺院の割合が突出して多い地域であり、その存在形態の考察は、地方史や宗教史の観点からも重要な成果である。奥能登は過疎化が進み、寺院自体の存続が危ぶまれる時代となっており、今回の調査活動はこうした寺院の歴史を後世に残す貴重な成果であると考える。

研究成果の概要（英文）：This study examines the Shingon sect, specifically the temple's group Kessyu, located in Machino, Nakai, and Mokurou areas, of Okunoto. The researchers investigate the historical documents and materials stored in the temples. Through the collected database, the purpose of this study is to analyze the historical transition of Kessyu and regional features.
This research of existing 18 different temples and two library for three years enables the lists of stored documents. This paper also expands on the consideration of Kessyu’s historical transition, origin documents and materials, preservation of cultural property, and relationship with other temples of the Shingon Sect. The results of this investigation have been published in public symposium and study reports.

研究分野：日本史

キーワード：寺院史　真言宗　史料学　仏教史

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

（１）開始当初の研究状況

奥能登地域には他の石川県内地域とは異なり、真言宗寺院が多く見られる。これらの寺院は結衆と呼ばれるグループを形成し、仏教儀礼や法会、寺院の運営を維持してきた。奥能登の真言宗の結衆には町野・中居・木郎の三結衆が知られているが、急激な過疎化や高齢化により奥能登地域に変化がもたらされており、結衆寺院の在り方にも変化が生じてきている。

こうした中、最も活動が活発で近世以来の様子を残しているといわれる町野結衆では、平成２３・２４年度に「奥能登における真言宗寺院の年中行事を中心とした民俗調査」として神奈川大学日本常民文化研究所の助成を受けた、畠山聡氏らのグループが町野結衆の年中行事や一部の結衆寺院の調査を行い、平成２６～２８年度には宮野が研究代表者となり「奥能登における真言宗寺院の総合調査」として科学研究費助成事業（学術研究助基金助成金）基盤研究Ｃ（一般）の助成を受け、町野結衆寺院の個別調査を実施した。

（２）本研究到達への経緯

①町野結衆寺院の悉皆調査の実施

平成２６－２８年度の科研事業で、町野結衆寺院１３カ寺の内１０カ寺の調査を実施し、その大部分の調査を終えた。しかし、金蔵寺（所蔵のおおよそ半数の資料が未調査）、法華寺といった町野地域でも中核ともいえる寺院や平氏の末裔時国家の菩提寺である高田寺、中世史料にも名前のみえる佐野寺が未調査であり、これらの寺院の調査実施が望まれる。

②金蔵寺旧蔵資料の追跡調査

町野結衆の金蔵寺で実施した調査では、明治から大正期の住職密守榮源師が高野山大学の図書館（密門文庫）へ２４７巻、種智院大学（当時の真言宗聡合京都大中學）の図書館へ５７７巻の典籍等を寄贈した記録が確認されており、遺跡調査が望まれる。

③中居・木郎結衆での調査の実施

町野結衆寺院の調査を進める中で、近隣の木郎結衆や中居結衆との間での僧侶の移動も数多く確認されている。これらの僧侶の活動状況をより正確につかむためには、可能な限り木郎・中居の両結衆の寺院調査を実施すべきであると考える。これら２つの結衆も、町野同様に地域の過疎化や高齢化とういう問題を抱えており、出来る限り早急な調査の実施が望ましい。

④高野山親王院能登関係資料調査

高野山親王院は、能登の真言宗寺院との歴史的関わりが深く、能登の真言宗寺院を考察するために重要な資料がある可能性がある。このため、可能な限り親王院の能登関係資料を確認することが望ましい。

２．研究の目的

町野結衆寺院において、未調査の寺院や追加調査が必要な寺院の資料の調査を行い、金蔵寺旧蔵資料の追跡調査を実施することにより、一つの結衆グループ寺院の悉皆資料調査を完成させる。また、町野結衆とは異なる視点から結衆寺院を見るため、中居・木郎結衆寺院の資料調査を実施する。さらに、違う視点の資料から奥能登真言宗寺院を考察するため、高野山親王院の資料調査を実施する。こうした作業を通して、以下の３つの問題にアプローチする。

（１）各寺院の基本的データベースの作成

前回の科研事業同様に、奥能登の真言寺院が所有する資料の体系的な調査を実施し、調書を作成する。各寺院の所蔵する資料や歴史、歴代住職、あるいは結衆共有の資料に関する基本的なデータベースを作成する。これらの作業に際しては、前回の科研事業のデータも活用し充実させていく。

（２）結衆寺院及び真言宗寺院の歴史的変遷の確認

上記の資料調査を通じて、各寺院の歴史的変遷を可能な限り明らかにし、結衆組織の特色・結衆寺院の共通点・相違点を探る。こうした結果に基づいて、中世以降の奥能登の真言宗寺院の在り方について更に探究する。

（３）結衆寺院からみる奥能登地域の特色の探究

上記の資料調査や真言宗寺院の歴史的変遷の探究を通じて、奥能登地域の社会・信仰・歴史などの地域的特色を探る。

３．研究の方法

（１）研究方法

①調査対象寺院・機関

奥能登の輪島市・能登町に所在する町野結衆寺院の調査を実施する。前回の科研事業で未調査となっている金蔵寺の一部史料・高田寺・佐野寺・法華寺などを調査する。これらの寺

院を調査することにより、現在町野結衆を構成する寺院の調査が網羅され、結衆の全体像が把握できると考える。

また、金蔵寺より寄贈された高野山・種智院両大学の図書館所蔵資史料の確認、調査を行い、町野結衆の中核寺院である金蔵寺についての研究を深める。

町野の調査に目処がついた段階で、中居・木郎結衆寺院の中から、調査可能な寺院に依頼し調査を開始する。

高野山親王院では、蔵の修理に合わせて能登関連資料を確認し、調査可能な資料について調査を実施する。また、以前に調査を実施している高野山大学密教文化研究所の調査結果を確認し、研究の深化に活用する。

②調査対象と項目・方法

能登では、古文書、聖教、仏典、絵画、仏像、仏具、石造物等を調査する。それぞれの調書を作成し写真を撮影する。調書には番号を付し、名称・法量・銘文・奥書・状態などのデータを記載する。調書にとったデータはパソコンでデータベース化する。古文書・聖教については、特に重要と思われるものについて全ページの写真撮影を行う。また、各寺院の住職など関係者への聞き取り調査を行い、データの補強に努める。

高野山大学、種智院大学の各図書館、高野山親王院では、各機関・寺院の利用規程に沿って調査を実施する。資料の確認、史料名、数量、法量、奥書などの基本データの収集を行う。

③資料保存への配慮

能登での調査では、古文書・聖教・仏画などは保存状態を確認し、必要に応じて個別に文化財に影響の少ない中性紙封筒に入れ、更に中性紙の保存箱に収納、或いは薄様紙で包むなどの処置を施し貴重な資料の保存をはかる。

（２）研究計画

①調査計画

・奥能登結衆寺院

研究協力者との調査は、年間４回の現地調査を計画し、２～３ヶ月に１回のペースで実施することとする。研究協力者の移動時間を考慮し、日程は１回の調査につき２泊３日（実質の調査期間は２日間）を基本とする。調査寺院への移動も考慮し、宿舎は「国民宿舎能登やなぎだ荘」とし、具体的な日程は調査先の寺院のご都合と調査研究者がより多く参加できる日程を選び、決定していくこととする。調査の進展状況に合わせて、代表者のみで日帰り調査などを行うこととする。調査先の寺院との日程調整がつかない場合は、他の寺院と日程調整し調査可能な寺院を優先的に行うなど柔軟に対応し、研究計画に遅延が無いように努める。

・高野山大学図書館・種智院大学図書館

明治・大正時代に寄贈されている資料であるため、両大学図書館に事前に確認し現存状況や調査可能な範囲を見極め、基本データの収集を行う。

・高野山親王院・密教文化研究所

高野山親王院では、蔵の修理に際して搬出された資料の中から、研究協力者とともに能登関係資料を確認・調査する。また、高野山大学密教文化研究所が以前実施した調査結果を確認する。

②成果の公開

各寺院における調査結果のデータベース化が進んできた段階で、個別事例の検討などを行い、学会等において発表する。

調査参加者の成果発表や地元の方々との意見交換を行うために、公開シンポジウムを開催する。

研究の最終年には、３年分の調査成果を報告書としてまとめ、他の方々にも利用できるよう、地域の図書館や大学・研究機関の図書館、同一テーマに関心を持つ研究者等に配付する。

４．研究成果

（１）各寺院・機関所蔵資料データベースの作成

今回の事業では、３年間でのべ１０３日間の調査を実施し、６，８８５点の資料の確認・調査を実施した。調査先としては、町野結衆寺院が前回からの追加調査を含む９か寺、中居結衆寺院が５か寺、木郎結衆寺院が２か寺、高野山大学図書館、種智院大学図書館、高野山親王院である。この他、高野山親王院の史料を確認するため、高野山大学密教文化研究所にもうかがっている。

各寺院・機関で調査した所蔵資料のデータは、「名称」、「分類」、「点数」、「年代」、「製作者・書写者・寄進者」などの基本的な項目をまとめ、『奥能登における真言宗結衆寺院の総合調査－町野・中居・木郎三結衆寺院を対象として－研究成果報告書』（国際高等専門学校、2020、以下『研究成果報告書』と省略）P78-P375 に掲載し、公開した。

（２）町野結衆寺院歴代推移表（改訂版）の作成

平成２６－２８年度の科研費事業（研究代表者宮野「奥能登における真言宗寺院の総合調

査－町野結衆寺院を対象として－」）において、町野結衆寺院の住職の期間を年表にした町野結衆寺院歴代推移表を作成し、『奥能登における真言宗寺院の総合調査－町野結衆寺院を対象として－研究成果報告書』P151-P161 に掲載した。本事業により各寺院の住職の動向が新たに明らかとなった部分について、追記した改訂版を作成し、本事業の『研究成果報告書』（P377-P387）に掲載した。

（３）公開シンポジウムの実施

３年間の調査によって得た成果を公開すると共に、それらに基づき関係寺院の方々、周辺地域の方々、研究活動に関わる方々と共に行うディスカッションを通して、更なる研究の深化を図るために、令和元年１２月１４日（土）に、国民宿舎能登やなぎだ荘（鳳珠郡能登町柳田）において公開シンポジウムを実施した。

当日は、調査関係者も含め６０名に参加頂き、調査参加者による報告３本と、パネルディスカッションを実施し、地域の方や結衆寺院のご住職にもご参加頂き、結衆寺院や奥能登の信仰・歴史に関して理解を深めた（公開シンポジウムの様子は、『研究成果報告書』（P15-P29）に掲載した）。

なお、この公開シンポジウムは、地元の加能地域史研究会、能登総合研究会の協賛を頂くと共に、その様子は地元新聞にも取り上げられた（『北國新聞』2019 年 12 月 15 日（日）朝刊）。

（４）『研究成果報告書』の作成・配付

最終年の令和２年３月、調査によって得たデータや研究成果を取りまとめた、『研究成果報告書』（全 387 頁）を作成した。

この『研究成果報告書』は、研究成果の公開や研究の深化のために、調査先の寺院・研究機関、宗派の関係寺院、地元の研究機関・図書館、県内外の研究者などへ配付した（なお、『研究成果報告書』に収めた個別の研究成果については、以下の（５）を参照のこと）。

（５）個別事例についての考察

研究代表者および研究協力者にいる個別事例の考察によって、以下のように新たな知見を得ることができた。

①奥能登結衆寺院調査の概要と寺院の様相

研究代表者の宮野純光は、「奥能登における真言宗結衆寺院調査の概要」（『研究成果報告書』）において、３年間の調査の対象・日数・点数などの概要を述べると共に、各寺院・機関に所蔵された資料の中から、その寺院等に特徴的なものを取り上げて考察を加え、そこから各寺院の様相を指摘した。

②結衆寺院の伝来資料の分類

研究協力者の畠山聡は、「岩倉寺文書目録　解題」（『神奈川大学日本常民文化研究所　調査資料目録　岩倉寺文書』）において、岩倉寺に伝来した資料を古文書・聖教に分け、さらにそれぞれを内容で分類し、解説した。

③結衆寺院の伝来資料の分析

研究協力者の畠山聡は、「岩倉寺文書について－目録を作成して明らかになったこと－」（『研究成果報告書』）において、町野結衆の岩倉寺に残された寄進状、観音開帳関係資料、日露戦争従軍兵士関係資料を分析し、岩倉寺の観音信仰についてその一端を考察した。

④木郎結衆と寺院の変遷

研究協力者の寺口学は、「木郎結衆の歴史と史料」（『研究成果報告書』）において、先学の業績を踏まえつつ、木郎結衆寺院の関連資料や什物についてまとめ、各寺院と木郎結衆の変遷について考察した。

⑤経典からみる仏事の様相

研究協力者の生駒哲郎は、「能登の仏事の一齣－加賀藩主前田家の権威－」（『日本の歴史を解きほぐす－地域資料からの探究』）において、金蔵寺に伝来した大般若経の概要と伝来について考察し、前田家に関連した経典の受容について考察した。

（６）成果を踏まえた展望

①調査の継続

町野結衆寺院では大部分の資料調査が終了したが、本事業終了後、町野結衆の寺院から移動した大般若経の存在が確認されており、追跡調査の必要がある。また、中居・木郎の結衆寺院では、調査途中となった寺院もあり継続して調査を行っていく必要がある。

また、高野山親王院の能登関係資料に関しても、存在が確認されたが未調査となっている資料があり、調査の機会があれば確認したいと考える。

②対象地域の拡大

奥能登の真言宗結衆寺院を調査していく中で、中能登や加賀の真言宗寺院に関わる資料も確認されている。今後、研究の対象地域を広げていくことにより、更な研究の深化の可能性が考えられる。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

〔学会発表〕　計5件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 宮野純光
２．発表標題 寺院の資料調査から見る寺宝の護持
３．学会等名 高野山真言宗第四地域伝道団教師研修会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 宮野純光
２．発表標題 真言宗町野結衆寺院の資料調査と考察
３．学会等名 加能地域史研究会例会
４．発表年 2017年

１．発表者名 宮野純光
２．発表標題 奥能登における真言宗結衆寺院調査の概要
３．学会等名 奥能登における真言宗結衆寺院の総合調査－町野・中居・木郎三結衆寺院を対象として－　公開シンポジウム
４．発表年 2019年

〔図書〕　計2件

１．著者名 宮野純光　代表	４．発行年 2020年
２．出版社 国際高等専門学校	５．総ページ数 387
３．書名 奥能登における真言宗結衆寺院の総合調査－町野・中居・木郎三結衆寺院を対象として－研究成果報告書	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究協力者	畠山　聡 (HATAKEYAMA Satoshi)		
研究協力者	高梨　佳世子 (TAKANASHI Kayoko)		
研究協力者	高梨　真行 (TAKANASHI Masayuki)		
研究協力者	西　弥生 (NISHI Yayoi)		
研究協力者	生駒　哲郎 (IKOMA Tetsurou)		
研究協力者	寺口　学 (TERAGUCHI Manabu)		